

相談援助の理論と方法 I

専門教育科目 / 2 単位 / T 授業

担当教員 児崎 友美

■使用テキスト

福祉士養成講座編集委員会(編)

『新・社会福祉士養成講座第7巻 相談援助の理論と方法 I 第3版』中央法規出版 2015

◆参考テキスト

講義概要・一般目標

本講座では、「相談援助の基盤と専門職」で学んだ内容について基礎的な項目を再度復習すると共に、実践に近づくことを目的に事例を中心として授業を展開していく。

そこで、本講座受講生は、能動的に事例に取り組み、即ち自らがソーシャルワーカーの立場として課題に取り組むことを期待します。

課題の提示の方法としては、基礎的な項目に対する知識の再点検と事例を下にどのような援助計画や実践を提示していくかということを問う内容を提示していきます。

さらに、制度・政策的な流れについても理解を深め、ソーシャルワーク展開の分野についての特徴についても合わせて理解を深めて下さい。

到達目標

- 1) 本講座では、相談援助の基礎的なことを再度確認することで、ソーシャルワーカーにとって「相談援助」の展開過程を説明できる
- 2) 他の専門職が行う「相談」と何がどう違うのかを理解し、その特徴についても合わせて説明できる

実務経験のある教員による教育

科目担当(児崎)は、福祉現場である特別養護老人ホームに3年、地域包括支援センターに13年という期間、社会福祉士として実務経験を担ってきた。このような実務経験に基づき、実践に必要な相談援助の理論と方法についての知識を修得することを目的に添削指導を行う。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

学習指導

第1章 相談援助とは

この章ポイント

本章では、「ソーシャルワークとは何か」について学ぶことを目的としている。テキスト内の事例を基に、ソーシャルワークの定義、枠組み、ソーシャルワークの構成について理解し、ソーシャルワーカーが所属する機関による、ソーシャルワーク実践過程の相違についても理解する。

第2章 相談援助の構造と機能

この章ポイント

本章では、ソーシャルワークの構造と機能について理解する。その際、人と環境との関係について構造的に理解することが必要である。さらに、人、家族、小集団・組織、地域社会に有している力（ストレングス）の理解とアプローチの対象としての構造も理解する。

第3章 人と環境の交互(相互)作用

この章ポイント

本章では、人とその環境の相互作用について理解し、対象を把握する力を獲得することを目的としている。特に、ソーシャルワーク理論の一つの視座である、一般システム理論を理解するとともに、具体的な事例、身近な場面で活用できることも目的としている。

第4章 相談援助における援助関係

この章ポイント

本章では、援助関係に焦点を当て、その構造とラポール形成のあり方、さらに援助対象規模について理解する。さらに、効果的な援助関係形成の実践理論と実践過程のあり方について理解を深める。

第5章 相談援助の展開過程Ⅰ

この章ポイント

本章では、相談援助の展開過程について事例に沿って、具体的に理解を深めることを目的とする。その際、アセスメントの内容によって、援助計画に大きく影響を及ぼすことを理解し、援助を展開する必要性があることにも留意して欲しい。

第6章 相談援助の展開過程Ⅱ

この章ポイント

前章に引き続き、相談援助展開過程について、特にモニタリング、再アセスメント、支援の展開の強化、支援の終結、評価ということについて理解を深めることを目的としている。その際、マイクロ、メゾ、マクロ展開の視点を持つことも重要である。

第7章 相談援助のためのアウトリーチの技術

この章ポイント

本章では、ソーシャルワーク援助過程における、アウトリーチについて理解を深めることを目的とする。アウトリーチ手法は今後ますます必要とされることが予測され、特に地域包括支援センターの社会福祉士にとって重要な手法でもある。